

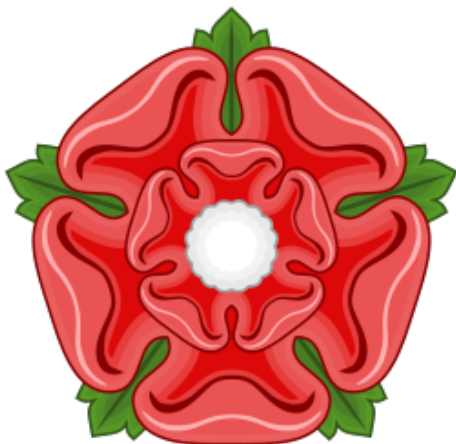
## マグダラのマリアの血流

この部分の言い回し方は難しいのです。

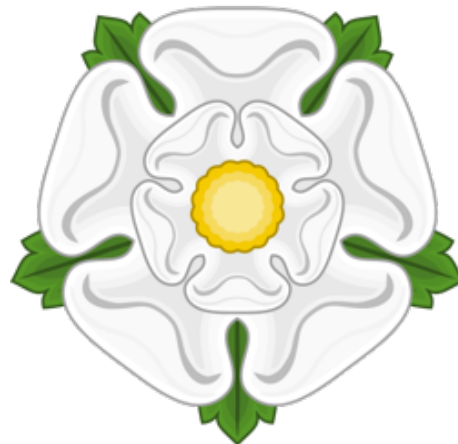
**重視するからこそ大切に守り保護する場合があります。しかし重視するからこそ捨て置くことが出来ずに排除に走る場合もあるのです。保護と排除、どちらもあるのです。**

マグダラのマリアが地上世界にいた頃から約 2000 年経過しています。**マグダラのマリアには数名の子供がいた模様です。従ってマグダラのマリアの血流は数系統に別れます。**また時代が下れば、その数系統に別れた血流のそれぞれからも幾つもの支流が生まれます。**マグダラのマリアの血流といっても一括りにはできないのです。**自分たちに関わりのある一つの血流系統は大事に保護する。または幾つかの血流系統が互いに大切に保護し合う関係もあります。しかし逆に同じ血流からの系統であっても互いに敵対して相手を排除しようとする場合もあるのです。

有名な歴史事実として、間違いなくマグダラの血流と判断できるその子孫同士が殺し合いをしてもいます。**薔薇戦争**です。**五弁の薔薇を共に家紋**にし、その紅バラを家紋とするランカスター家と白バラを家紋とするヨーク家の血みどろの争いです。1455 年から 1485 年まで続いた王位継承をめぐる文字通りの「**骨肉の争い**」でした。



ランカスター家の赤薔薇



ヨーク家の白薔薇

Author:Sodacan [CC BY-SA]